

2学期が始まり、運動会の練習や学習にみんなよく取り組んでいます。なかなかやる気になれないとき、勇気をもたらるのはどんな言葉でしょうか。新聞から見つけた小学6年生の言葉を紹介します。

<朝会で話した主な内容> テーマ:「勇気をもたらった言葉」

「土筆」これは、東京都の平山さんという小学6年生が勇気をもたらった言葉として、新聞で紹介されていたものです。「つくし」と読みます。つくしには、日に日に大きくなる成長の様子を表すことから、「意外」や「驚き」という花言葉があります。平山さんの書道の先生が、一日一日確実に成長してほしい、という願いを込めて、この言葉を贈ってくれたのだそうです。私は、記事を読み、つくしに花言葉があるのを初めて知りました。

つくしは、見た目が土から生えた筆のような形のため、この字を使うようになったそうです。そして、平山さんは、最初から鮮やかな色合いをもつ花とは比べものにならないけれど、目立たない存在でもしっかりと根をはり、元気に上を向いて成長していく「つくし」のようにありたいと思い、心を込めて字を書いたそうです。

皆さんにも、毎日少しずつ成長してほしいと願いを込めて、この話を贈ります。そして、色々な本を読んだり、人と話したりして、勇気の出る言葉を見つけて下さい。(引用 平成30年8月27日(月)朝日新聞より)

<感想>

- 1 「土筆」は、はじっこでもかくれていても、毎日「ぐん」と伸びるところが、とても素晴らしいことだと思いました。私の元気の出る言葉は、「気持ち」です。どんなに難しくても、どんなに強くても、気持ちがあれば何でもできます。上手い、下手ではなく、気持ちがあるかないかでとっても変わります。運動会で強い気持ちをもって挑めるように、頑張りたいです。
- 2 「土筆」を「つくし」と読むことを初めて知りました。土筆は、土からぐんぐん伸び続けて、立派に成長するという意味です。この言葉を言われると元気が出ます。私も、ぐんぐん伸びていきたいです。
- 3 「ありがとう。」や「がんばって。」などを積極的に言って、みんなを頑張らせるような言葉を出していただけたらと意識したいです。そのために、言葉遣いなどもしっかりしていきたいと思います。
- 4 私の元気の出る言葉は、「大丈夫?」「手伝うよ。」などの、気遣ってくれる言葉です。無理だと思っても、そういう言葉があると、気持ちが少し軽くなるような気がして嬉しくなります。私も進んで、自分から言えるようにしたいです。
- 5 考えたことが2つあります。1つ目は、僕も元気の出る言葉を見つけて、元気がないときに元気を出せるようにしたい。2つ目は、僕もつくしのように、ぐんぐん成長したいです。
- 6 私も、土筆みたいにいつでも元気な自分になりたいです。そのために、いつでも笑顔で、自分から挨拶をしたり、手を挙げたりしようと思いました。
- 7 土筆をつくしと読むのを初めて知りました。私の元気になる言葉はいろいろありますが、一番元気の出る言葉は、「がんばって。」です。なぜなら、緊張しているときに言われたら、頑張れるからです。
- 8 元気の出る言葉は、「大丈夫」やほめてくれる言葉です。自分が言われて嬉しいことや、元気の出る言葉をみんなに伝えたいです。
- 9 なりたい自分は2つあり、1つは土筆みたいになりたいし、2つは何もかも人に頼らず、まずは自分でできることはやる人になりたいです。理由は、自分でできないと、何もできないからです。
- 10 自分の「元気の出る言葉」を考えました。私は、たくさんの言葉を思いつきます。たくさんの言葉を思いつくことは、「いいこと」だと思います。なぜなら、それだけ自分を元気づけられることだと思っているからです。なので、私はもっと元気の出る言葉を考えたいと思います。